
無職の観察

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無職の観察

【Nコード】

N8351X

【作者名】

【あらすじ】

22歳、男。職業はバイトを転々としてよく言えばフリーター
ー 現実には、無職。

無職と言っても親の脛にかじりついているわけでもなく、金困っているわけでもなく、一人暮らしを満喫している。

趣味は見知らぬ人を観察すること。他人を意味もなく見てもまだ気味悪く思われることもなかった。

そんな男の観察対象は・・・

（前書き）

これはとても短い小説です。
をお勧めします

電車まちなどの暇つぶしでよむこと

22歳、男。職業はバイトを転々としていてよく言えばフリーター
現実には、無職。

無職と言っても親の脛にかじりついているわけでもなく、金困って
いるわけでもなく、一人暮らしを満喫している。

趣味は見知らぬ人を観察すること。他人を意味もなく見ていてもま
だ気味悪く思われることもなかった。

そんな私の最近の観察対象は、ない。

ない、というよりも観察することができる状態ではなかった。

台風がきていた。巨大な台風でしかも速度も遅い台風だとニュース
では言っていた。

今日を入れて10日連続で、窓の外からみえるのは曇天と雨だった。
一日だけ、台風の目に入った日もあったがそれでも天気雨が降って
いた。

そんな訳であまり外にでることも出来ずに家の中でダラダラとして
いた。

閉めた窓越しに空をみて、私は目を閉じ天に願ってみた。

「早く雨をやませてください」

雨は子供のころから好きではなかった。濡れるし、寒いし、外には
いけない。子供の私にはとてもつらいものがあつた。大人の私でも
あまり楽しくない。

窓の外を見ながら、この枠が一時停止したらものすごい幻想的にな
るのではないかと考えたらすこし楽しくなったが、実行できないの

であまり考えないでおいた。

雨の日のすごし方はいたって簡単だ。

寒ければ、コタツに入り、飼っている魚達の水槽を眺めていたり、本を読んだり、体を鍛えたりしている。私はあまりテレビを見ない。テレビの液晶よりパソコンの液晶を見ている時間のほうが多いが、最近はパソコンの液晶すらみなくなった。

さすがにここまでくると、雨が好きではないから嫌いになりそうだった。

コタツの上においてある本をたぐりよせようとした時、雨水が落ちる音がした。私は風呂場と蛇口を確認したがしつかり閉まっていた。また、雨水が落ちる音がした。

私は不思議に思ったが、なんとなく原因はわかっていた。お世辞にも綺麗とはいいい難い木造建築の家の2階から、雨の日に風呂場、蛇口以外から聞こえる雨水の音は一つしかない。雨漏りだ。

部屋の隅の床が雨水で少し濡れていた。とりえず、タオルを敷いその日は放置していた。

次の日例の場所を見て私は驚いた。タオルの容量を超えて、水の吸い込みが追いついていなかった。よくよく考えれば当たり前だ。約一秒間隔で落ちてきている雨水がタオル一枚で足りるわけがなかった。だからといってタオルをここに余分において置くのは、床にカビが生えそうで嫌だった私は対策を考えた。バケツを買いに行けばよかったただけだろうが、ようやくできた暇つぶしをそんな簡単に手放したくなかった。

「一つだけあるこのでかいジョッキを使おうか。……あきらかに足りない」

ジョッキ、丼、カップ麺の容器。いろいろ考えてみたが容量がどれ

もたらない気がして諦めた。そのうち私は、別に溜めるだけが方法ではないと気がつき、水槽から石を持ってきた。

時間をかければ、一滴づつの雨水で石段に穴を開けるというのは本当か一度試してみたいと前から思っていた。雨水が落ちてくる速度もあるから早く穴が開くのではないかとなんの根拠もないが思っていた。一応石の下にタオルを敷いて一日様子を見ることにした。落ちてくる雨水をしっかりと石は受けていた。

「録画でもするか」

ずっと見ていてもすぐに変化でるわけがないので録画することにした。こういう子供っぽいことは、夏休みの自由研究の延長みたいでなかなか楽しい。この日の夜は石に何年したら穴が開くか、貫通とまではいかなくてもくぼみができるかを考えながら寝た。

朝起きると、雨どころか雲ひとつない快晴だった。ニュースによると台風は寝ている間に起動変更したらしい。

雨がやんだという事は、雨漏りも止まり、石の表面は乾いていた。ニュースは台風後の天気予報をよんでいる。

「台風が去った後は、真夏日になり雨が降ることは当分ないと思われます」

神様はあまり信じていないけれど、いたずら好きなのかもしれない。雨が降った後のどくとくの土の臭いと涼しい風が、久しぶりに開けた窓から入ってきた。

私は雲ひとつない天に向かって目を閉じまた祈ってみた。

「早く雨を降らしてください」

目を開けると、窓枠に溜まっていた雨水が、ポツンと頭に落ちた。

（後書き）

考え方を変えるきっかけはくだらないもので十分だと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8351x/>

無職の観察

2011年11月13日12時47分発行